

携帯電話を利用した日本語教育における漢字学習コンテンツの可能性 —端末画面に表示される文字フォントと文章表示の問題点—

古川 雅子

要 旨

本研究では、日本語学習者(就学生)13名を対象に、携帯電話・PHSの画面上に表示される漢字・文字の判読および文章の読みやすい表示方法について3つの実験調査を行なった。

実験1では、画面に表示された漢字を正しい漢字として紙に書き写すことができるか調査した。その結果、未知の漢字を画面に表示されている文字から正しく認識することは、日本語学習者にとって難しいことが明らかになった。また、提示された漢字が被験者にとって既知の漢字であっても、別の既知の漢字に読み間違える可能性があることも確認できた。実験2では、選択方式をとり、画面上と同じ漢字や文字を、紙面上の各選択肢から選択することで、印刷物との認識一致度を調査した。選択肢による比較検討の場合、被験者は正しい漢字を画面からほぼ判読できていることが確認できた。実験3-1、3-2では、印象評価実験を行ない、3-1では画面に一度に表示される文章の区切り(改行)について単語の終りを重視するほうが読みやすいか調査した。実験3-2では、続きの文を画面に表示する場合、画面を切り替える方法と1行追加する方法とを比較検討した。

【キーワード】 携帯電話, インターネット学習コンテンツ, 漢字, 液晶画面, 文字フォント, 文章表示方法

1. はじめに

現在、日本で日本語を勉強する外国人留学生の80パーセント以上が携帯電話(PHSを含む)を持ち、その半数がEメールを利用している。iモードやezwebなど携帯電話におけるインターネットコンテンツを利用した日本語学習教材が、将来日本語学習者にとって有効な日本語学習方法のひとつとなる可能性があらわれたと考えられる。しかし、現在主流の携帯電話では、ファイルデータのダウンロード容量に限界があるため、音声や画像・動画などを十分盛り込んだインタラクティブな日本語教育のコンテンツを作成することがまだ難しく、今後の携帯電話の技術的進歩を待たざるを得ない。だが現在でも見方を変えれば、文字による日本語学習教材を提供することなどは容易である。例えば、学習者が日本語でEメール機能を利用し、そこで漢字変換を行なえば結果としてその携帯電話は漢字教材となる。実際、日本語学習者のなかには、日本で使われる漢字を覚える為にEメールの漢字変換機能を使って、漢字を学習している者もいる。ただ、携帯電話で漢字教材を提供することを考えた場合、まず携帯電話画面に表示される漢字が、学習モデルとなりうるか検証する必要がある。

2. 実験調査の目的

現在も携帯電話の液晶画面や文字フォントの改良は盛んに行なわれ、「読みやすい」漢字表示を謳い文句に新機種が次々と発売されているが、その内容には1文字あたりのドット数制限による「文字の潰れ」を解消していく努力が含まれている。これは言い換えると、標準サイズで表示される漢字の多くが、あるべき字画を省略され、漢字全てが日本語学習者の学ぶべきモデルとなりうるとは限らない状況になったことと考えられる。漢字によっては、拡大フォントでも字画を省略されている文字があることも確認している。そこで、実際にこのような省略漢字が携帯電話に表示された場合、それを漢字教材と見立てて学習者が正確な漢字を学習できるかについて、日本語学校で日本語を勉強する外国人留学生(就学生)13名を対象に実験調査をすることを目的のひとつとした。

もうひとつは、携帯電話の画面で表示される文章表示方法についての調査である。パソコンなど英文ワープロでは、単語のまとまり単位で自動的に改行できるような微調整が可能となっているが、携帯電話でその機能があるものは少ない。また携帯電話の画面に表示される文を単語ごとに改行することは、画面に一度に表示できる文字数が少なくすることである為、一目で見られる情報量が減ってしまうことに加えて、全文を読む際に必要な操作数が増えて手間がかかってしまうことが問題として挙げられる。この問題が日本語学習者にとって日本語の文章を読む場合にも当てはまるのか調査し、日本語学習者にとって読みやすい表示方法を考えたい。

実験調査の目的は、具体的には以下の3点である。各目的は、後述の実験1～3にそれぞれ対応している。

- 1) 画面に表示された漢字を正しい字画の漢字として認識できるか
- 2) 画面に表示された漢字と印刷物の漢字の対応を認識できているか
- 3) 画面に表示された文章を読む場合に、どの改行方法や追加文表示方法が読み易いと感じるか

3. 実験方法

今回の実験調査では千駄ヶ谷日本語教育研究所に協力していただいた。

実施1週間前に今回の実験協力者募集ポスターを構内に掲示し、応募した13名に実験調査への協力を依頼した。(2001/9/25)

実験時間は1時間程度とし、被験者の授業が午前・午後に分かれている為、午前11:00~12:00(6名)と、午後1:30~2:30(7名)の2回に分けて実施した。

実験では、1人につき携帯電話を1台支給し、それぞれが携帯電話のボタンを操作しつつ表示画面を見て、配布した質問用紙に記入する方法をとった。用意できた携帯電話の台数(4台)は被験者数より少なかった為、始めに4人の被験者に調査を行ない、その間残りの被験者には質問用紙のアンケート部分を記入しつつ待ってもらった。

調査問題に使用した出題漢字は、留学生が日本語能力検定1級合格に必要な範囲に限って、画面上で漢字画数が省略される漢字を分類し、そこから提示した。(注1)

今回の実験参加者は、以下の通りである。

(表A)

日本語レベル(注2)			国籍			母語		
初級	中上級	上級	中国	台湾	韓国	中国語	韓国語	朝鮮語
6	6	1	9	1	3	9	3	1

「漢字学習に関するアンケート」では、以下の回答(表B)を得た。今回の実験対象者は、全員が日本語学校で日本の大学または大学院に入学するために日本語を勉強している就学生である為、漢字学習は受験に必要なとの意識が高く、毎日勉強している学生が多い。また、全員が漢字圏の文化をもつ為なのか、漢字を書いて覚える方法の他に、見て覚えるという回答もあった。

(表B)

質問	回答	人数
日本の漢字を勉強しているか	はい	13
	いいえ	0
漢字を勉強する目的	日本語を勉強する為	11
	生活する為	1
漢字を勉強する頻度	毎日	7
	週20時間程度	3
	週15時間程度	2
	週3時間	1
漢字を覚える方法	漢字を書いて覚える	8
	漢字を見て覚える	3
	見たり書いたりして覚える	2

4. 結果と考察

4-1 実験1(質問1)

「画面の文字を見て、同じ文字を書いてください。また、この漢字を知っていたら隣に○を書いてください。」という設問で10題提示し、学生の回答に対して以下4つの観点から分析を行った。

1) 表示文字の認識

携帯電話の画面に表示された漢字の字形をそのまま忠実に用紙に書き写すことで、どのような

字形が画面に表示されていると認識しているか調査した。表示文字通りの漢字（つまり学ぶべき漢字とは異なり、字画が省略された漢字）を書き写すことができた被験者が多いことが、以下の表 1-1 から分かる。画面に表示されている省略文字に関わらず、漢字によっては漢字として正確な文字を書く者もいた。

[表 1-1] (1 = 正確な漢字を書いた 0 = 画面表示通りの文字を書いた)

	レベル	母語	員	鑑	風	響	闇	薦	賞	事	重	離	合計 A
回答者1	初級	中国語	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
回答者2	初級	中国語	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
回答者3	初級	中国語	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
回答者4	初級	中国語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答者5	初級	中国語	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
回答者6	初級	中国語	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
回答者7	中上級	中国語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回答者8	中上級	中国語	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
回答者9	中上級	中国語	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
回答者10	中上級	韓国語	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
回答者11	中上級	韓国語	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
回答者12	中上級	朝鮮語	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
回答者13	上級	韓国語	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	3
合計 B			0	6	9	0	0	0	0	0	1	9	25

表 1-1 の合計 A と合計 B を比較すると、画面の表示通りに漢字を書き写すよう指示を出したにも関わらず、正確な漢字を書いたのは、被験者個人的な傾向ではなく、出題された漢字によるものであることが推測できる。

そこで次に、この傾向が被験者の既知の漢字知識が影響しているか調べた。

2) 過去の習得度の影響

下の表 1-2 では、画面に表示された漢字を知っているか質問して回答を分析した。今回の実験では漢字圏の被験者が多いため、日本語の使用漢字として習得したものを「習得」と定義づけた。

上の表 1-1 からは、「鑑」「風」「離」に被験者の過去の学習習得度が影響しているのではないかという仮説を立てることが可能である。

表 1-2 では、「鑑」「風」「離」の過去の習得度は高いことが分かる。しかし、同時に他の出題漢字も過去の習得度は高かったことが分かった。

[表 1-2] (1=既知の漢字である 0=未知の漢字である)

	レベル	母語	員	鑑	風	響	闇	薦	賞	事	重	離	合計 A
回答者1	初級	中国語	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
回答者2	初級	中国語	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	4
回答者3	初級	中国語	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	5
回答者4	初級	中国語	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	7
回答者5	初級	中国語	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	3
回答者6	初級	中国語	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	4
回答者7	中上級1	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
回答者8	中上級1	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
回答者9	中上級1	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
回答者10	中上級1	韓国語	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	9
回答者11	中上級1	韓国語	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	9
回答者12	中上級2	朝鮮語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
回答者13	上級2	韓国語	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	9
合計 B			10	10	13	7	7	4	8	11	12	11	93

表1-1では、敢えて既知の漢字を画面表示通りに書いてもらったが、表1-3から分かるように、画面に表示された漢字を既知の漢字として認識できたのは、被験者の中に「正しい漢字」のイメージがあった為といえる。そこで、次に、被験者が提示された漢字に対して、正確に対応する漢字を実際にイメージできているのか調べた。

3) 正しい漢字のイメージ認識 (1)

携帯電話の画面に表示された漢字が「間違った漢字」であるか質問した。漢字の字形についての質問なので、「間違った漢字」と指摘した被験者数は、表1-2より多くなる場所もあったが、これは被験者に漢字圏の学習者が含まれる為だろう。

[表1-3] (1=間違った漢字である 0=そうは思わない)

	レベル	母語	員	鑑	風	響	間	薦	賞	事	重	離	合計 A
回答者1	初級	中国語	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	7
回答者2	初級	中国語	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	7
回答者3	初級	中国語	1	1	0	0	0	0	1	1	1	0	5
回答者4	初級	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
回答者5	初級	中国語	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	9
回答者6	初級	中国語	1	1	0	1	1	0	1	1	1	0	7
回答者7	中上級1	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
回答者8	中上級1	中国語	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	9
回答者9	中上級1	中国語	1	0	0	0	1	1	1	1	1	0	6
回答者10	中上級1	韓国語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
回答者11	中上級1	韓国語	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	7
回答者12	中上級2	朝鮮語	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	9
回答者13	上級2	韓国語	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	7
合計 B			13	7	4	11	12	11	13	13	12	7	103
指摘割合(%) [1の割合]			100	53.85	30.77	84.62	92.3	84.62	100	100	92.3	53.85	

「間違った漢字」と指摘する被験者の傾向には、母語やレベルごとの有意な差は見られなかったが、指摘数は高い割合を占めていることが分かった。

4) 正しい漢字のイメージ認識 (2)

表1-3で「間違った漢字」と指摘する被験者が、実際に「正しい漢字」を認識できているのか確認するために、正しいと思う漢字を記入してもらった。未記入(0)は、表1-3で「間違った漢字」と指摘していない被験者か、「間違った漢字」と指摘したが「正しい漢字」を書くのをあきらめてしまった被験者である。

[表1-4] (1=提示漢字と同じ漢字を記入 0=未記入 ×=異なる漢字を記入)

	レベル	母語	員	鑑	風	響	間	薦	賞	事	重	離	合計 A			
回答者1	初級	中国語	×(負)	0	0	0	×(間)	×		1	1	0	1	3		
回答者2	初級	中国語		1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	4		
回答者3	初級	中国語		1	1	0	0	0	0	1	1	1	0	5		
回答者4	初級	中国語		1	0	1	0	0	0	1	1	1	1	6		
回答者5	初級	中国語	×	1	0	0	×	0	1	×	×	×		2		
回答者6	初級	中国語		1	1	0	1	×	0	1	×	1	0	5		
回答者7	中上級1	中国語		1	1	1	1	1	1	1	1	×(垂)	1	9		
回答者8	中上級1	中国語		1	1	0	1	1	×	1	1	1	0	7		
回答者9	中上級1	中国語	×(負)	0	0	1	1	1	1	1	1	×(垂)	0	5		
回答者10	中上級1	韓国語		1	1	1	1	1	×	1	1	1	0	8		
回答者11	中上級1	韓国語		1	0	0	1	1	0	×	(覚)	1	×(垂)	0	4	
回答者12	中上級2	朝鮮語		1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	9		
回答者13	上級2	韓国語		1	0	0	1	1	0	×	(覚)	1	×	(垂)	0	4
合計 B				10	6	4	8	7	3	11	11	7	4	68		
×の数合計				3	0	0	0	3	3	2	2	5	1	19		

これは正しい漢字を認識しているか確認する為に設けた質問だったが、「員」を「負」と間違える者2名、「闇」を「闇」と間違える者1名、「賞」を「覚」と間違える者2名、「重」を「垂」と間違える者4名を確認した。また、表1-3では「間違った漢字」と指摘しているが、実際には「正しい漢字」を表記できない者が少なくとも10名確認できた。

4-2 実験2

画面に表示された漢字を、用紙上に示された2~3択の選択肢から選ぶ問題を提示した。出題漢字には、必ず日本語能力検定試験出題範囲の漢字を含み、被験者が試験勉強の際に紙面で見にする可能性がある漢字を設定した。

[表2] (1=正解 その他=別回答)

	レベル	母語	土土	未未	讓護讓	題頭題	壁壁	ばば	パパ	熱熱熱熱	合計 A
回答者1	初級	中国語	1	1	1	1	1	1	1	その他	7
回答者2	初級	中国語	1	1	1	1	1	1	1	その他	7
回答者3	初級	中国語	1	1	1	1	1	1	1	その他	7
回答者4	初級	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	8
回答者5	初級	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	8
回答者6	初級	中国語	1	1	1	1	1	1	1	その他	7
回答者7	中上級1	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	8
回答者8	中上級1	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	8
回答者9	中上級1	中国語	1	1	1	1	1	1	1	1	8
回答者10	中上級1	韓国語	1	1	1	1	1	1	1	1	8
回答者11	中上級1	韓国語	1	1	1	1	1	1	1	1	8
回答者12	中上級2	朝鮮語	1	1	1	1	1	1	1	1	8
回答者13	上級2	韓国語	1	1	1	1	1	1	1	1	8
合計 B			13	13	13	13	13	13	13	9	100
正答率(%)			100	100	100	100	100	100	100	69.23	96.15

表2の「その他」という回答は、(正答の)「熟」という選択肢があるにも関わらず、それを選択せずに被験者自らが新たに選択肢として書き加えた文字である。該当する4つともに「熟」の「口」の部分が「|」となっていた。

実験2では、提示する問題に表1-4で被験者が間違えた「員」と「負」、「闇」と「闇」、「賞」と「覚」、「重」と「垂」を加えて、実験1で行った表示漢字の再生能力と実験2の再認能力を具体的に比較調査できると良かった。

4-3 実験3

実験3では、画面の文章表示の読みやすさについて以下2つの場合における印象評価実験を行った。

1) 改行の位置

改行の位置を画面の端に統一するパターン(A)と、文の句節の切れ目で改行するパターン(B)のどちらが読みやすいと感じるか、実際に日本語の文章を読み判断してもらった。英語のワープロ文のように単語の終わりで改行が行われるほうが読みやすいとの仮説は一応成り立ったが、全体的な割合から見ると圧倒的に支持されるわけでもないことが分かった。レベル別に見ると、初級レベルが6人中5人、Bパターンを選択していることが分かった。しかし、上級レベルもBパターンを選択している。従って初級レベルがBパターンを好んでも、上級レベルになるにつれてAパターンが好まれるようになるとは言えないことが分かる。

[表3-1] (読みやすいと回答した表示パターンを1とする)

	レベル	母語	A	B
回答者1	初級	中国語	0	1

回答者2	初級	中国語	0	1
回答者3	初級	中国語	0	1
回答者4	初級	中国語	0	1
回答者5	初級	中国語	0	1
回答者6	初級	中国語	1	0
回答者7	中上級1	中国語	1	0
回答者8	中上級1	中国語	1	0
回答者9	中上級1	中国語	1	0
回答者10	中上級1	韓国語	0	1
回答者11	中上級1	韓国語	0	1
回答者12	中上級2	朝鮮語	0	1
回答者13	上級2	韓国語	0	1
合計			4	9
割合(%)			30.77	69.23

2) 続きの文を読む方法

一回の画面表示で、表示される文章が全て入りきらない場合は、続きの文を読む操作が必要となる。現在の端末では、画面下に一行追加していく表示方法 (A) と画面全体を続き文に切り替える方法 (B) がある。どちらの方法が続きの文を読みやすいか、1) と同じ文章を表示させて比較した。結果ではレベル別の有意な差が見られなかった。被験者個人の好みによると推測できる。

[表 3-2]

	レベル	母語	A	B
回答者1	初級	中国語	0	1
回答者2	初級	中国語	0	1
回答者3	初級	中国語	0	1
回答者4	初級	中国語	1	0
回答者5	初級	中国語	1	0
回答者6	初級	中国語	1	0
回答者7	中上級1	中国語	0	1
回答者8	中上級1	中国語	1	0
回答者9	中上級1	中国語	0	1
回答者10	中上級1	韓国語	0	1
回答者11	中上級1	韓国語	0	1
回答者12	中上級2	朝鮮語	1	0
回答者13	上級2	韓国語	1	0
合計			6	7
割合(%)			46.15	53.85

5. 総合的考察

携帯電話は限られた画面の中で、12×12 程度のドットを一文字に割り振り文字フォントを作成している。当然、TrueFont をそのまま埋め込むとドット数を多く必要とする文字が潰れてしまう。そこで各メーカーでは読み易いフォントの開発が進んでいるが、開発側が目指すのは、「文字が潰れないこと」である。つまり、日本人にとっての読みやすさとは、多少字体を簡略化しても文字が潰れていないことといえる。この傾向が液晶画面の文字フォントを開発する側にある限り、漢字表示が印刷物同様の「正しい漢字」に戻る可能性が少ないことが予想できる。

現在日本で生活する日本語学習者が所有する携帯端末を利用して文字教育として漢字教材を開発する場合は、少なくともまずは画像を使用して規定フォントよりも大きいサイズでの漢字の導入を行う必要があるだろう。また、標準サイズの規定フォントを使用してテキスト文を表示する場合でも、学習者が読み間違える可能性が分かっているので注意が必要である。更に付け加えると、ストロークフォントを用いた拡大フォントの表示でも、省略されている漢字はあるので、漢字表示を大きくして見れば良いと安心することもできない。

6. おわりに

携帯電話によるコンテンツの利点は、情報の携帯性と多様性にある。携帯電話を利用した学習コ

ンテンツなら、重い辞書や嵩張る勉強道具を広げずに、どこからでも少しの時間を利用して簡単なボタン操作によって、1人で自由に勉強時間を作ることが可能である。したがって、今後期待される携帯電話の技術的進歩によって、日本語教育においても学習メディアとして使用できる可能性が大いにあると考える。その期待がある一方で、日本語学習にふさわしいツールとする為には、外国人の立場から可能性と問題点を考える必要があることが、今回の実験調査で分かった。

最後に、今回の実験調査にご協力いただいた千駄ヶ谷日本語教育研究所の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

注

1. 『日本語能力試験 漢字ハンドブック』(アルク)に収録されている全ての漢字(2055字)を対象に、画面で省略される字画を含む漢字を分類した。分類にはAUのC451Hを使用し、標準サイズの文字フォントを見て省略の有無を判断した。分類結果は、資料1に掲載した。

2. 千駄ヶ谷日本語教育研究所のホームページ (<http://www.jp-sji.org/jpc/course/level.html>) に公開されているクラスレベル一覧に基づく、「初級 I」は日本語能力試験 4級(語彙数 800語)レベル、「初級 II」は日本語能力試験 3級(語彙数 1,500語)レベル、「初中級」及び「中級」は日本語能力試験 2級(語彙数 6,000語)レベル、「中上級」は日本語能力試験 1級(語彙数 10,000語)レベルである。

参考文献・URL

- (1) 移動電気通信事業加入数の現況(2001年10月4日)(総合通信基盤局発表)
http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/pressrelease/japanese/sogo_tsusin/011004_1.html
- (2) 携帯所持率(2001年7月18日)(創刊15周年 アルク『日本語ジャーナル』主催【外国人学生のための「アルク進学フェア 2001」アンケート集計結果】)
<http://www.alc.co.jp/press/release/release0718.htm>
- (3) 「LCフォント.C」開発(シャープ、携帯向け新フォント「LCフォント.C」を「J-SH07」に掲載) <http://k-tai.impress.co.jp/news/2001/05/30/lcfontc.htm> (2001年5月30日)
- (4) (SANYO ホームページ) 新方式ストロークベースフォント技術の開発(1999年7月1日)
<http://www.sanyo.co.jp/koho/hypertext4/9907news-j/0701-1.html>
アルク日本語出版編集部編著『日本語能力試験 漢字ハンドブック』(1994年5月1日初版発行 アルク)

資料

1. 質問用紙

名前

{ 国籍 }

{ 母国語 }

① あなたは漢字を勉強していますか
 はい →②へ
 いいえ →③へ

② 漢字を勉強している人は1～3の質問に教えてください。

1. 漢字を勉強する目的
{ }

2. 漢字を勉強する頻度
{ }

3. 漢字を覚える方法
{ }

③ 漢字を勉強しない理由は何ですか。

[]

質問1

画面の文字を見て、同じ文字を書いてください。また、この漢字を知っていたら隣に○を書いてください。

①		
②		
③		
④		
⑤		
⑥		
⑦		
⑧		
⑨		
⑩		

質問2

画面の文字と同じ文字を選んで○をつけてください。

①	土 士
②	未 末
③	讓 護 議
④	題 顕 顧
⑤	壁 璧
⑥	ば ぱ
⑦	バ パ
⑧	熱 黙 熟 勳

質問3

画面の文を最後まで読んでください。画面Aと画面Bのどちらが読みやすかったと思いますか？

①	A	B
②	A	B

2. 回答分析結果一覧

出題問題	回答者1	回答者2	回答者3	回答者4	回答者5	回答者6	回答者7	回答者8	回答者9	回答者10	回答者11	回答者12	回答者13
クラス	初級	初級	初級	初級	初級	初級	中上級1	中上級1	中上級1	中上級1	中上級1	中上級2	上級
国籍	中国	中国	中国	中国	中国	中国	台湾	韓国	中国	韓国	中国	韓国	中国
母語	漢語	漢語	中国語	中国語	中国語	中国語	漢語	韓国語	朝鮮語	韓国語	漢語	韓国語	中国語
あなたは漢字を勉強していますか(○=はい⇒下記①を回答×=いいえ⇒下記②を回答)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
①漢字を勉強している人は、以下の質問に答えてください。													
1. 漢字を勉強する目的	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強するため	日本語を勉強のため	中国語では漢字があるので漢字を勉強しています。しかし日本語の漢字は中国語とちよつと違うので今は漢字を勉強する目的は日本語を勉強するのです。
2. 漢字を勉強する頻度	1週に20回	1週間に20回	ときどき1週間に3回	1週間に3回	1週間に3回	1週間に3回	1週間に3回	1週間に3回	1週間に3回	1週間に3回	1週間に3回	1週間に3回	1週間に3回
3. 漢字を覚える方法	たくさん書く	書くこと	見る	見る、書く	見る	書く	読む方法を暗記するだけ、書き方は別にしないで大丈夫だと思う	読む方法を暗記するだけ、書き方は別にしないで大丈夫だと思う	反復的に書きながら見たりします。	反復的に書きながら見たりします。	反復的に書きながら見たりします。	反復的に書きながら見たりします。	反復的に書きながら見たりします。
②漢字を勉強しない理由は何か。													
質問1 画面の文字を見て、同じ文字を書いてください。また、この漢字を知っていたら隣に○を書いてください。													
1-1. 員 欄内の字は正しい漢字である=○ 欄内の字は間違った漢字である=×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
1-2. 員 この字を知っている=○ 未記入=×	×	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○
1-3. 員 画面に表示された字は間違っていると思う=○ 未記入=×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

1-4. 員 画面に表示されている 字は間違っている ので、正しい字を書いた。 書いた字は正確である =○ 異なる漢字を書いた =×未記入=なし	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×
2-1. 鑑	○	○	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○
2-2. 鑑	○	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
2-3. 鑑	×	×	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×	×	×
2-4. 鑑	なし	なし	○	なし	○	○	○	なし	なし	○	○	なし	なし	なし
3-1. 風	○	○	○	×	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○
3-2. 風	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3-3. 風	×	×	×	○	×	×	○	×	○	○	○	×	×	×
3-4. 風	なし	なし	なし	○	なし	なし	○	なし	○	○	○	なし	なし	なし
4-1. 響	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4-2. 響	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
4-3. 響	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
4-4. 響	なし	なし	なし	なし	なし	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5-1. 聞	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
5-2. 聞	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
5-3. 聞	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5-4. 聞	×	なし	なし	なし	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
6-1. 薦	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6-2. 薦	×	×	×	×	×	×	○	×	○	×	○	×	○	○
6-3. 薦	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
6-4. 薦	×	なし	なし	なし	なし	なし	○	なし	○	×	×	なし	○	○
7-1. 賞	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
7-2. 賞	×	×	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
7-3. 賞	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7-4. 賞	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○
8-1. 享	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
8-2. 享	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8-3. 享	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8-4. 享	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
9-1. 重	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
9-2. 重	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9-3. 重	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9-4. 重	なし	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	×	×
10-1. 離	×	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○
10-2. 離 この字を知っている= ○ 未記入=×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10-3. 離	○	×	×	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	×
10-4. 離	○	なし	なし	○	×	×	○	なし	○	なし	○	なし	なし	なし

真問2
画面の文字と同じ文字を選んで○をつけてください。

士=×	士=○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
未=○	未=×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
離=×	離=×	離=○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
題=○	題=×	題=×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
壁=○	壁=×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ば=×	ば=○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ハ=×	ハ=○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
熱-1	熱-2	熱-○	その	他	その	他	その	他	その	他	○	○	○	○
熱-3			(Like熱)	(Like熱)	(Like熱)	(Like熱)	(Like熱)	(Like熱)	(Like熱)	(Like熱)	○	○	○	○

真問3
画面の文を最後まで読んでください。画面Aと画面Bのどちらが読みやすかったと思いますか？

①A=改行なし B=改行あり	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	A	B	A
②A=1行送り B=画面送り	B	B	B	A	A	A	B	A	A	B	A	B	B

